

論文第七 リスボン大地震とイギリスの国際関係

第一節 スペイン駐在イギリス大使ベンジャミン・キーン

第二節 ポルトガル駐在イギリス大使アブラハム・カステルス

(準備中)

総合研究 リスボン大地震 一七五五年
―近代ヨーロッパの社会的震撼―

永治日出雄

第一節 スペイン駐在イギリス大使ベンジャミン・キーン

イギリスの著名な外交官ベンジャミン・キーンは、一七四五年から一七四九年までポルトガル駐在イギリス大使としてリスボンに在留した。専制君主ジョアン五世の晩年、リスボン大地震の六年前である。一六九七年イングランド中部の港町キングス・リンで市長の子として生まれたキーンは、ケンブリッジとライデンで法学を修めたのち、ホイッグ党の領袖ロバート・ウォルポールの愛顧を受け、一七二三年南海会社の代理人としてスペインに派遣された。おりしも南海泡沫事件によって世論が沸騰し、一七二一年政権の座に就いたウォルポールの手腕で収拾の段階に入ったのである。スペインにおけるキーンの使命はこうした政策の一環と思われるが、まもなくマドリッド駐在イギリス領事の兼務を命じられた。一七二七年同国で全権大使に栄進した彼は、翌々年セヴィリア条約の調印に携わって英西戦争の終結に貢献し、さらに中南米での密輸をめぐるスペインとイギリスの紛争を解決するため、一七三九年エル・パルド協定の成立に尽力する。しかし、スペインの強硬な態度に沸騰する与論に押され、同年十月イギリス政府は宣戦を布告し、大使キーンを本国に召還した。

帰国後の彼はエッセクス選出の国会議員、商務省の幹部、年金局長官に就任したものの、内政の諸問題や議会での活動に熱意を抱くことはなかった。他方イングランドの名門貴族、チャールズ・コンプトンはポルトガル駐在大使の職務にあったが、帰国して年金局長官などに就任する願望を抱いていた。こうしてホイッグ党の有力政治家、外務南方省長官ニューキャッスル公爵のもとで人事は進められ、やがて幸運にもキーンはポルトガル駐在大使の地位を得た。スペインから退去する旅路で、キーンはこの国の情緒に心惹かれ、親密な友人アブラハム・カストレスが一七四二年から領事としてリスボンに駐在するのである。かつてカストレスはマドリッド駐在領事として大使キーンを補佐し、セヴィリア条約の締結に関与した。以後両者の友誼は終生続き、本節の主要な史料『ベンジャミン・キーン私的書簡集』では、カスト

Richard Lodge, Introduction. in Benjamin Keen, *The Private Correspondance*, 1933, Cambridge. pp.xi-xii.

ibid., pp.xii-xiii.

レス宛通信が根幹となつて収録の過半を占める。一七四五年五月ポルトガル駐在大使に任命された喜びを、キーンはつぎのように伝えた。

親愛なるカストレス殿

一七四五年五月七日 スプリング・ガーデン

ベンジャミン・キーン

拝啓。ついに念願を叶えたと、さきの書簡でそなたに知らせましたが、海外へ行幸される前日、この木曜日に全権大使として国王陛下から信任状授与の儀式を賜り、日曜日には（フレリック）王太子殿下も同様の式事を催されました。私への拜命を殿下に奏上され、歓送の儀を用意されたことを、席上セリエール閣下に感謝を申し上げましたが、閣下のご厚意は終生心に刻まれるでしょう。人類への奉仕と貢献を果たすべく、ため全力を尽さねばなりません。 中略

親愛なる友よ！コンプトン様が邸宅と必要な家具すべてを、私のため欣然として譲渡されたのですね。三つのベッドをそちらへ運ばせます。大型のダマスク織ベッド、スペインで用いた小型のダマスク織ベッド、そして旅行用のベッドです。ダマスク織ベッドも相応の価格では処分できず、任地へ携えて行きます。親身な助言をすべて大切にします。私のためコンプトン様の家財をできるだけ安く買い取り、ご自身の四輪馬車を改造されたのです。 中略

取引や購入などリスボンで私に必要なと思われる事柄を、大使の名義と権限で行ってください。なお、ロンドンに留まる間、定期便の度毎に便りを送るつもりで、パケット船が出港することに、そなたも書簡を寄せてください。

敬具。

一七四〇年大陸ではマリア・テレジアの神聖ローマ皇帝即位をめぐつて、でオーストリア継承戦争が勃発し、イギリスとオランダが女帝を支援する一方、プロシヤ、フランス、スペインが別の皇帝を擁立して攻撃を続けた。その五年後イギリスの調停によって講和への気運が芽生え、フランスと緊密に連帯したスペイン国王が逝去した。後継者フェルディナンド六世の王妃は、ポルトガルの王女バルバラである。こうしてキーンがリスボンへの派遣を任

ぜられたのは、断絶したスペインとの友好を、ポルトガルを介して回復する好機が、イギリスに訪れた時期である。かつてマドリッドに駐在し、スペイン宮廷に篤く信頼される彼こそ、イベリア半島の両国宮廷とバツキンバムを繋ぐ重要な使命に最適であると期待された。

前任者コンプトン公爵の屋敷を領事カストレスの尽力によって譲り受けたキーンにとって、ポルトガルでの日常生活はスペインにおけるよりも一層快適であった。リスボンの屋敷は公邸として用いられ、在留イギリス人の礼拝のため教会も付設されていたが、近郊に設けた別荘で寛ぐ余裕も得られた。ケンブリッジ・ピーターズ・カレッジの教官、実弟のエドムンド・キーン神父に宛てた書簡に、そうした彼の居常が誌される。

エドムンド・キーン神父様

一七四八年十月九日 リスボン

親愛なる弟よ。

多々お手紙を頂くことを、感謝も返書もすべきと気にしつつ、そなたの精励や身内の消息についていつも喜んで読み入っています。とくに返答も求められず、そちらに依頼する事柄もないので、失礼を重ねてきました。中略

こちらでは都塵から離れた地に立派で快適な邸宅に住んでいます。ここには三百人の会衆を容れる礼拝堂が付設され、(英国商館教会司祭)ニコライ神父をはじめ、数ヶ月代りを勤めたパーカー神父も説教壇に立つのを誇りとされます。ニューパークの別宅と同じような山荘を、王都から四レガ離れたシントラに持ち、二カ月ほど暮しました。これまでに得られたもつとも素晴らしい所有物で、素朴な生活の便宜もすべて備えています。池などではなく、大洋を眺望できるのです。故国での坂道に代つて、ここには山稜が連なり、下方の家々がしばしば雲や霞に覆われるため、頂上に聳えるムーア人の城砦といくつかの修道院は、あたかも天空に築かれたように映じます。この一帯の由緒と名称も浪漫に満ちて、ペナ・ベルデ(緑の岸壁)と呼ばれ、アジア征服に尽くした一族が、褒賞として国王から授けられたました。豪壮な軍人で、第四代インド副王であった彼は、異教徒を心服させて公平無私であり、邸宅には一本の果樹もなかったようです。さらに調べてみると、この人物ドン・ジョン・

デ・カストロは、インドで取得した土地を築城するため、頼ひげを一万ポンドの抵当に入れ、防備を固めました。

この書簡に示されとおり、キーンは名勝シントラをイギリスに紹介したひとりとされる。その六十年後詩人バイロンはヨーロッパ遍歴に立ち、イベリア半島を訪れた。シントラの絶景と古蹟は、風光と初期の代表作『チャイルド・ハロルドの巡礼』第一巻で朗々と歌われる。バイロンの詩作は明治の文学者に愛読され、土井晩翠はこの大作の全訳を成就した。

第十八歌

見よ！シントラの光栄のエデン！

山と谷との錯雑の迷路をなして横わる。

あゝあゝ！ 何等の腕がよく筆を導き、いにしへに

楽園の戸を驚ける世界の前に開きたる

詩人の述べし言葉にまさり、

人間の眼を驚かす其絶妙の影のうへ

半^{なか}を逐^おつて進み得む？

第二十歌

やかてしづかに羊腸^{じやうちぢぢ}の山路をめぐり、

途すがら足をとめて目を放て、

更に巖の高きより新^{あいた}の風致ながめ見よ、

かくて『聖母のしろしめす憂^{うれい}の宿』に身をいこへ！

つゝましやかかの山僧は其いささかの宝物を

示し、旅ゆく人々に昔の事を説ききかす。

神の非礼のともがらの罰つけし場^{には}はこゝとこそ、

又見よ、かなた洞窟の中にすみたり難行と

苦行をつみて天上の報^{むくい}得るべくホノリアス。

全権大使としてリスボンへ着任したキーンは、多くの在留イギリス人、とくに英国商館の構成員と親交を結んだ。十五世紀の同業組合を始原とする英

Keene, *op.cit.*, pp.60-62.

バイロン著、土井晩翠訳『チャイルド・ハロルドの巡礼』一松堂書店。一九二四年、
一三二―一三五頁。

国商館は、ポルトガルに在留するイギリス人の商易と連帯を促進する組織であつて、リスボン、ポルト、マデイラに置かれた。各地の領事が商館の館長を兼ねて、教会司祭と専属の医官をも擁し、大使キーンはこれらすべてを統率したのである。相当の規模で取引し、社会的な信用を有することが会員の資格とされ、イングランド銀行頭取のメイリック・ビュレルや南海会社副社長のダイヤモンド業者、ジョン・ブリストウなど、有力な実業家も構成員として記録される。また、貿易商の多くは家族とともに暮らし、数世代にわたるポルトガル居住者も見られる。ポルトの英国商館には豪華な集会室とクリケットなどの運動場を備え、リスボンでは親睦のため隔週ごとに舞踏会も開催された。

王命を奉じる大使や領事は、活動的な貿易商と立場の相違からときに摩擦を生じたが、寛厚な人柄と豊かな心情によつてキーンはとくに敬愛された。以後久しく交誼を続けたのは、指導的な貿易商のウイリアム・モーマンやダヴィッド・プリイ、司祭ウイリアムソンと医家カントレイ、さらにはコペンダール夫妻、ヘイケ夫妻、ペロセン夫妻、ストウト夫妻であつて、これらの家長は英国商館の幹部であり、夫人たちは社交界を活気づける才媛であつた。

とはいえ、深い愛着を感じるポルトガルにながく居住することを、イギリスの国策はキーンに許さなかつた。アーヘンの講和条約によつてオーストリア継承戦争が終結し、断絶したスペインとの関係も正常に復する。しかし、ナポリ王国とサルマ公国を衛星国としてフランスの勢力が強大であり、これに抗するため反ブルボン陣営の再建が急務となつた。こうして外交政策の中樞ニューキャッスル公爵は、フランスの介入を牽制し、スペインとの提携を緊密できるのは、キーンしかいないと判断する。リスボン永住の願望も抱き、身体の不調も感じていたが、私情に流される彼ではなかつた。光栄にも国王の勅命を拝受し、祖国のため尽力する旨、一七四八年八月二八日ニューキャッスル公爵宛書簡で応えた。快適なポルトガルの生活は二年余に止まり、多くの在留イギリス人に見送られ、なお隣国から文通を重ねたが、以後彼らとふたたび顔を合わせることはなかつた。

L. M. E. Shaw, *The Anglo-Portuguese Alliance and The English Merchants in Portugal*, 1654-1810. pp.62-64, 71.

Lodge, *op.cit.*, pp.xiv-xv.

ibid., pp. xiii-xv.

リスボン総領事および英国商館各位殿

一七四九年一月十三日 リスボン

ベンジャミン・キーン

謹白。

英西両王室の幸ある和解により畏れ多くも国王陛下が、スペイン宮廷へ派遣する使節として余輩を指名されたことを知りました。陛下の命令を早急に果たすべく、いま準備しております。

今回陛下から賜った信頼と任命がいかに名誉であろうとも、ポルトガルの国土でイギリス国民の保全とわれらの特権の擁護に關与できた光栄を消し去るものではありません。幸運にもともに暮らした貴紳の方々は、公的な活動における秩序と規律、私的な生活における品位、調和、友愛、かつまた商業取引における精励および公正によつて、ポルトガル人の尊重と尊敬の的となり、彼らの事業や商議にも貢献されました。

そのように価値ある美德の正当な評価としてなお語るべきは、国王陛下に向けて皆様が絶えざる愛慕を抱かれること、王室を侵害するあらゆる企て、プロテスタンの伝統の遮断を試みるあらゆる人物を、皆様が忌避されることです。

こうした証左は行く先々でいつも誇り得るものであり、貴紳の方々の別離を痛恨の至りに感じさせます。ここに成就された全般的な繁栄が持続し強化されること、また栄光ある商館の皆様が福祉と幸福を享受されることを、心から祈念するに止めます。

敬具。

二

一七五五年三月三一日リスボン遷都五百年に因む新歌劇場の初日を、遙かマドリッドの空の下でキーネは待ち望んだ。その前日彼はスペインの王立歌劇場で、イタリアの有名なカストラート歌手、マンツォーリの来演に接したばかりである。マンツォーリはポルトガル国王からも招待され、まもなくリベイラ王宮の舞台に立つはずであった。幸あるリスボンをキーンが離れて、早くも五年の歳月が流れていた。この間に彼はスペインの政治的な自立と英国との友好に尽力し、一七五〇年に植民地での抗争を緩和する通商条約の締

結、また一七五二年にはスペインとオーストリアの連携の強化、アランジュエズ条約の調印を成功させた。

他方リスボンでは総領事カステルスが、キーンの後任として全権大使に昇格し、両者の間で頻繁に個人的な書簡が交わされた。カステルス宛キーンの手紙は毎週あるいは隔週に執筆され、一七五五年の発送分のみでも三七通が保存される。

親愛なるカストレス殿

一七五五年三月三一日

ベンジャミン・キーン

筆跡がより鮮明であることを念じつつ、再度筆を執ります。粗悪な用箋のため、先回の便りは読み難いものでした。その後三月二二日に頂いたお手紙には、(ポルトガル駐在スペイン大使)ペラルダ殿の書簡を添付頂きました。書簡の要点は戦争と平和に関する事柄で、部分的にはすでに応答致しました。戦争か平和か、いずれに傾きかを神ならぬ身で予測できません。これまで(ロンドンの大実業家)ビュレルの見方が的を得ていました。こちらの君主はそちらの君主ほど平和的でないものの、充分に情報を示されず。我らふたりはそれぞれ然るべき立場にいるようです。

ロンドンからの郵便網で若い友人が伝えるところでは、本国の内情はあまり快いものではありません。名指しするまでもなく、ひとりのお方が全権を握っています。国王の権限や要望の及ばぬ領域で、できれば同じように支配したい一心で、他の方々もこれに強く反発する現状です。今期の議会が終了したのち、おそらく一方が失墜し、その結果他方が凱歌を挙げるでしょう。

リオ・デ・ジャネイロからの船便で、最近そなたが知り得た西インド情報を、どうかお知らせください。

ここへは土曜日に帰りました。昨日(アイルランドの使節)ウォール殿と宮廷および歌劇場で一緒になり、水曜日までふたりのため種々の歓待が用意されています。(カストラート歌手)マンツォーリが来演し、『エリージ』を聞かせてくれました。以前より彼は頑張っているようで、この曲が緊張させたと思います。そちらの大劇場は本日柿落しこけりです。

そなたの知己はみなお元気のように、お便りのなかで（ポルトガル駐在スペイン大使）ペラルダ公爵についての記述も嬉しく拝読しました。公爵が体調を悪くされると、友人たちの不安が募ります。ご本人の気持は判りませんが、私もそのひとりです。カデイスへ赴いた（貿易商）プリにも手紙を書くつもりですが、彼に委託する事柄や取引を頼む事物はなにもありません。ながくここに滞在して、今後どうなるか、行く末は測り知れません。

礼儀を重んじる（私の秘書官）クルフト殿は、お手紙に添えられた彼への挨拶を光栄に感じ、そなたに感謝しています。誠実な彼は多少浮ついたところもありますが、必要な任務は立派に果たし、私の生活を乱しはしません。そなたにそなたに忠実である従僕から、深厚なる敬意を捧げます。

敬具。

一七五五年十一月一日、万聖節の午前十一時頃マドリッド郊外のエスコウリアルで、キーンは三分間地震を感じた。近くのエスコウリアル王宮では震動がより強く、若干の建物が破壊され、国王フェルナンド六世と王妃バルバラは屋外に避難する。スペイン南部のアンダルシア地方は強震に襲われ、津波も伴ってカデイス、セヴィリア、グラナダでは甚大な被害に至った。これらスペインの震災についても、近年膨大な記録が公刊され、たとえば著者不詳のある古文書では、マドリッド一帯の様相が左記のように記述される。

マドリッド

十一月一日十時過ぎ王都の地底に全般的な衝撃が発生し、あらゆる家屋と多くの大建造物に八分間強震を惹き起した。突然の異変にすべての住民、とくに砂地の人々が驚愕し、揺れ止まぬなかで寺院や自宅から急遽脱出して、広い空地や辺鄙な街路へ震えつつ避難した。大きな被害には至らないものの、カプチン会修道院の聖堂において正面先端の十字架が前廊に落下し、王宮にある王立病院では子どもふたりの生命が奪われた。それ以外にも若干の建物が破壊されて、それぞれに修復を必要とし、サン・カエタノ教会も相当の被害を受けた。大勢の信者が寺院から脱出したので、不幸が倍加する恐れもあった。しかし、アトーシャの聖母マリアが聖都の慈母かつ守護として、当地の全員を護り給い、万能の御業によって襲いかかる惨劇を防禦された。エスコリアル王宮でもサン・イ

ルデフォンソ宮と同じく短時間緩やかな震動が発生し、その夜王宮に戻られた国王陛下の勅命によって、恩寵を祈る公式の儀式が営まれた。

（『一七二一年十一月一日午前イベリア半島で発生した劇烈な

地震の甚大な被害に関する不幸な記録と惨事の描写』）

やがてポルトガルより十一月四日付の至急便がエスコウリアル王宮に届き、地震と大火によるリスボンの凄惨な震災と、スペイン大使ペララダ公爵の遭難が衝撃を与えた。ポルトガル国王の一家は難を免れ、王妃であるマリアナ・ヴィクトリア、ほかならぬスペイン国王フェルナンド六世の実妹から直筆で同月八日付書間も届けられた。このためフェルナンド六世と宰相リチャード・ウォールは物資と資金の支援を決断し、枢密院議員カステイラを救援の総指揮を命じた。他方国内のアンダルシア地方でも激しい地震と津波の襲われ、スペイン王権はそれらの各地の状況や被害を調査すべく、十一月八日各地に回状を送付した。

エスコウリアルでリスボンからの至急便に接したキーンは、把握した情報をただちにイギリス宮廷に伝達した。しかし、彼が得た情報のなかに、カステルスからの急報も、英国商館からの報告もなかった。親友の安否に深い危惧を抱きながら、十一月十日震災後初めて彼はリスボンへ書簡を綴った。

親愛なるカストレス殿

一七五五年十一月十日 マドリッド

ベンジャミン・キーン

拝啓。悲運なペララダ（スペイン大使）の逝去を悼みながら、ローマ教皇大使もゲヴァラ（ナポリ公使）もバチイ（フランス大使）もそなたについては言及されないので、知らせがないことこそ無事である証しと望みを懸けています。地震には持ち堪えた建物も、火焰で焼尽したと聞きますが、そなたの公邸は安全な地点に位置すると思います。ご自身の安否について私を安堵させる便りが近々頂けるものと信じます。無惨に

Memoria fenebre, y descripción tragica de los inauditos formidables estragos. in Agustín

Uñas Vallina, *El Terremoto de Lisboa en Espana (testimonios ineditos)*, Brenes, 2010. p.94.

Fernando Rodriguez de la Torre, Documentos en el Archivo Historico Nacional

(Madrid) sobre el terremoto del 1 de noviembre de 1755. in *Cuad. diecioch.*, junio, 2005. pp.85-87.

も我らの同胞も、数多く死と破滅に陥ったとの報知がこちらに届くのを、危惧しています。スペイン国王陛下はみずから凄惨な災厄に襲われたかのように、沈痛なご様子です。運びうる多額の現金を託して、連日使者を派遣しつつ、国王陛下はご令妹（ポルトガル王妃）への親書で、用意できるすべてを急送すると仰せられました。国境に置かれた各税関はすべての生活物資を無料で通過させ、そなたの要請を受ければ、バダホースの税関所長からも発送する手筈です。悲運なペララダの逝去を陛下を哀悼され、彼の子息に貴族としての年金三千クラウンを賦与されました。暇に浮ぶは、自宅を焼失した人々をそなたが迎え入れ、彼らのため庭園にテント小屋を建てる情景です。一言で語れば、あの日に体験され、いまなお続くあらゆる恐怖に、己も襲われたら、と想像するのです。

リスボンでの発生から半時間弱ののち、エスコウリアルで私は震動を感じました。三分間続きましたが、被害はありません。マドリッドではより強烈であったものの、僅かな実害に止まりました。カルタゲーネ、マラガ、アリカンテについては微震にすぎず、カタルーナでは平常どおりでした。ジブラルタルは被害を受けたと聞きます。カデイスでは地震の約一時間後高潮が押し寄せ、被災の様相は不明ですが、なんらかの犠牲が生じたようです。ポルトでは被害が軽少であり、ガリシアは難を免れたと思います。

正餐を私と共にしたウォール殿は、今夕送達吏を派遣すると申されます。そなたが気がかりで心配である、と書かざるを得ません。ウンハオ伯爵はご尊父とご令嬢を案じて、死ぬ想いでおられます。おふたりの音信が届かないので、スペイン国王陛下が閣僚に指示され、送達吏のひとりには伯爵ご一家の安否を確かめただけでも、ただちに帰国するはずです。伯爵の嗣子はマフラにおられ、無事であったと聞きます。讚美すべき神の恵みがここにあります。

パケット便による公用便をそなたが送れぬ事態を考え、今回の震災については私がイギリスへできるだけ詳しく報告しました。そなたからの吉報を待ちつつ、親愛の情を送ります。敬具。

イギリス宮廷に届いたキーンの書簡は、リスボン大地震に関する公用便の第一報となった。そこでは名誉革命ののち立憲君主制が確立し、ジョージ二世のもとでウオポールの長期政権を経て、ニューキャッスル公爵が宰相の座

を占める。神聖ローマ帝国ハノーヴァ選帝侯の子息である国王は、父ジョージ一世の即位に伴って、ドイツからイギリスへ移住したのである。かつてオーストリア継承戦争でテイニングンの戦いでジョージ二世は、連合軍の陣頭指揮に立ち、フランス軍を撃破したが、絵図に残るその英姿もこのときは七四歳の高齢にあった。ロンドンにおける震災第一報とこれを受けたイギリス王権の対応について、月刊誌『ジエントルマンス・マガジン』は一七五五年十二月号でつぎのように伝える。

リスボンで今日一日午前九時に発生したきわめて怖るべき地震について確認の通信が届いた。約八時間続いた地震によって壮麗な首都の公共建造物と家屋居館の大半が破壊され、十万人以上が瓦礫の下に生き埋めとなった。こうした地獄絵に加えて首都の数カ所が地底から噴出した火炎が、残余の地域を焼き尽くし、最端から最端まで、フランスとスペインへの出発港にまで燃え広がった。国王、王妃、王室全員は王宮の倒壊直前に脱出された。スペイン大使と側近の九名は瓦礫のもとで死去された（七歳のひとり息子は無事）。また、有能な貿易商数名とともにイギリス領事と同じ運命に陥ったのではないかと憂慮される。なぜなら、宮廷や当局がこの災厄に関する報告をいまだ受け取らないからである。

言語に絶する災害の報告に陛下は強く心を動かされ、当初からの艱苦を慰藉するため、持参可能な金子を携えた通信使を毎日ポルトガル王宮へ派遣された。また、（スペイン国王は）ポルトガルとの国境においてすべての税関で、いかなる負担をも免除し、あらゆる種類の必需品の輸出を許可すること、また臣民も能うかぎりこれに協力することを命じられた。

名誉あるわが下院にこの時点で国王陛下のもとから提出された親書をつぎに掲げる。

本月一日リスボンで地震により惹き起された破滅的な惨事に関し、国王陛下はマドリッド駐在大使から報告を受け取られた。この地震はほぼ全都を焼尽して、数千の住民の命を奪い、生き残った人々を極度の困苦と窮乏に追い込んでいる。淳良で篤実な盟友、ポルトガル国王に深く共感される国王陛下は、英国臣民の多くが居住し、利害を持つ王都・王国の艱苦に同情され、信仰心と人間愛を有する万人が断腸の思いを感じる怖るべき震災について、下院が適切に配慮するよう勧告され、かくも切迫した苦難の事態に即応して、可能なかぎり迅速で効果的な救援を送る

よう希望された。

反対意見なく可決

かくして陛下が至当とされる方式によって、困窮するポルトガル国民に支援を供すること、また凄絶な災厄に沈む国民を救うための必要な経費は明年度の上納金から充当することが、下院によって承認された。

国王の親書は國務長官フオックスをとおし十一月二六日上下両院に提出されて、キーンの書簡とともに議場で朗読され、ポルトガルへの支援が歡呼して可決された。その翌日宰相ニューキャッスル公爵のもとで特別会議が開かれ、英国商館に係りある三名の貿易商を招いて、支援の具体的な細目も協議された。

イギリスからの援助に関して、リスボン古文書館にはポルトガル語による史料が保存される。おそらくロンドンに駐在するポルトガル外交官によって執筆されたものであろう。その前半は右記の親書および決議と同じ内容であるが、後半には支援の趣旨とともに、送付する物資の品目が列記される。

受理した悲惨な報告を受けて、国王陛下が深甚なる悲嘆を表明すると、悲運のポルトガル国民のみならず、われらの艱苦する同胞、すなわち当地で在留したり、商易するイギリス国民を全面的に支援すべきこと、さらに高遠な人類愛と深い憐憫の情によって 国王陛下が適切と判断される規模において、惨憺たる震災による窮状を緩和できるよう、第一次の支援物資を贈ることが、イギリス下院において満場一致で可決された。イギリス国王陛下がポルトガル宮廷へ寄贈すべく、リスボン宛てに船積みした支援物資の目録をここに提示する。

ポルトガル通貨	三〇万クルザード
スペイン銀貨	二〇〇デイタ
牛肉	六千バリ
バター	四千デイタ
ビスケット	千袋
米	千二〇〇デイタ
小麦粉	千二〇〇キンタ

この時点ではポルトガル駐在大使とリスボン総領事の死亡説も流れ、調査の使節として名門貴族シャルル・タウンゼントの派遣も準備された。地震発生の三日後に書かれたカストレスの書簡は、半月後にキーンの手元に届いた。マドリッドからの通報によってイギリス王室は、ようやく十二月初め大使と領事の生存を確認し、使節の派遣を中止する。

親愛なるカストレス殿

一七五五年十一月二十日 マドリッド

ベンジャミン・キーン

拝啓。十一月四日付および十一日付書簡を、昨日定期便で受け取りました。四日付を託されたオランダ人送達吏は、先週土曜日によくこちらへ到着し、災害の惨憺たる報告を一週後に手にしました。このように音信が届かないなかで、入手した他の情報にそなたの名前が見当たらぬのを吉兆と考えたこと、またそちらの悲運な罹災の様相、さらには心優しいそなたの人道的な救援活動や被災が険に浮かべたことを、私の十日付書簡でお察し頂けたと存じます。そなたにどう言えばよいでしょう。こうした災害のとき人々にどう話せばよいでしょう。しかし、同胞がみな奇蹟的に死を免れ、多くは現金さえ持ち出せたことを、喜びと驚きを感じています。重要な書類はあまり失われていないとのことですね。そなたに庇護されたオランダ大使の行状には私も義憤を抱きます。ブリストウの対処は美事なものです。無事であれば、老練なレヴィウスも然るべき役割を担うでしょう。国王と王妃もそなたの安否や消息について連日下問されています。気の毒なウンハオ公爵へもようやく手紙が届き、今次の災厄でアロルナの違反が帳消しになったようです。頂いた情報のなかでカデイスについては部分的に誤報を含み、サ・ルカールの状況はそれとまったく異なります。スペイン全土の被害は過大に伝えられており、リスボンの震災に較べれば、無に近いものです。哀れなウイリアムソンとカントレイにもよろしくお伝えください。危険な地帯に住んでお

Arquivo da Torre de Tombo. Papeis varios, tom. II, no. 229. in Sousa, *op.cit.*, p.534.

Paice, *op.cit.*, pp.146-147.

Lodge, *op.cit.*, p.161-162.

られたので、おふたりの幸運を私は祝福したい気持ちです。ご存じと思いますが、スペイン宮廷からポルトガル宮廷へ援助金が送付され、その謝意がこちらに届きました。送達史をながく待たせないよう、ここで筆を置きます。大きな災厄のなかでどうぞ健康と忍耐を保持してください。

敬具。

「追伸」そなたが無事であるとの知らせに、すべての旧友が歓喜したことをお伝えします。

スコットランドの定期刊行物『スコット・マガジン』も、まずポーツマスにおける津波の発生を十一月四日付で知らせ、それと連鎖するヨーロッパ各地、アムステルダム、ハンブルグ、マドリッド、ボルドーなどの異変を以後数多く報じた。同月二五日付の記事はパリ経由によるリスボン第一報であるが、ここではキーンの書簡に依拠するふたつの報道を訳出する。

十一月二九日 ベンジャミン・キーン卿がロンドンの貿易商アーサー・スチュートに宛てたマドリッド発十一月十日付書簡にはつぎのように書かれている。「リスボンではすべてが壊滅しました。王宮、総大司教教会、数々の豪邸が五分足らずで倒壊したのです。残余を大火が焼き尽し、なすすべもありません。命からがら脱出した人たちは、田野で宿も覆いも食物もなく、大抵は着替えも持ちません。ベレンにおられ、国王ご一家は無事でした。」

十二月二日 国王陛下がベンジャミン・キーン卿から受理された報告のなかに、ポルトガル駐在全権大使カストロ殿の書簡について言及があった。キーン卿宛十一月四日付書簡によれば、リスボン在住のイギリス人は極度の艱苦に曝されて、住居も破壊され、大半は帰国船を待機している。また、震災の様相に関する全体的で詳細な報告も、カストロ殿は船便に託したとの由。なお、別の書簡によれば、イギリス総領事へイ殿、オランダ大使とその家族、およびオランダ領事は無事であった。

これらキーンの通信はおおむねリスボンからスペインへ寄せられた情報によっている。なお、カストレスの安否を確かめるため、彼は教皇大使アシウ

エリの通信も閲読したと再三述べている。しかし、十一月四日リスボン発送の公用便はついにローマ教皇庁へは届かず、他の通信も十二月十一日によろやく受理されたはずである。ヴァチカン宛四日付公用便の閲読をキーンが許され、それが中継地マドリッドを経たのち、どこかで紛失したのであるうか。

親愛なるカストレス殿

一七五五年十一月三日 マドリッド

ベンジャミン・キーン

拝啓。只今そなたの十八日付書簡を受理し、つぎの送達便に託すべく、感謝の意を籠めて返信を綴ります。

お便りが私を安堵させました。十六日に発生した強烈な余震の情報をスペイン宮廷で耳にし、憂慮したところです。そなたの公邸がなお脆弱な状態にあり、敢えて屋内で就寝されるのを知っている私は、不安が増すばかりでした。地震にはもう慣れたのか、余震について書かれていないので、そなたの身の安全、凄絶な災害では最高の幸せを確信しました。当地の状況と苦勞を把握するのは至難の業ですが、それなりの良識も持たぬのか、オランダ大使ご一族が貴邸の世話にならず、よそに移るとは到底思われません。彼らには私も辛抱できません。無理矢理は許せないので。オランダ領事は数百人に食糧を支給し、その偉業を称讃されました。上司である大使を、なぜそのように世話しないのでしょうか。中略

コペンダル様のご不幸は残念でした。不慮のご逝去を衷心から哀悼申し上げます。優雅な生活を始めたばかりのジャスト様とご一家に關しても悲しく思います。惜しまれると奥様についてお書きですが、ほかの女性も同様に感じます。中略

親密なポルトガル国王陛下への厚意としてスペイン国王陛下は、弔意を表わす特別大使として、コンデ・デ・アラランダ殿を任命されました。駐在されるのは六カ月足らずでしょうが、私と親しいことをそなたに伝えてほしいとの由です。熱烈かつ勤勉なスペイン人である彼は、ご専門の軍事にとりわけ該博な知識を持ち、国政に早晚大いに貢献されるでしょう。彼のご尊父を憶えているかも知れません。ご尊母はなお健在で、ブモヴェル老の従妹に当たります。故人はもはやなにも語りませんが、

アラランダ殿は前任者に勝るとも、劣らないでしょう。

震災直後のカストレスと大使館公邸については、そこに避難したドラムランリッゲ伯爵の書簡が詳細である。サント・アンタオ市門の北、高台のサンタ・マルタ街に位置する公邸は破壊を免れ、即日大使は英国商館の神父ウィリアムソンやオランダ大使一族など、多数の被災者を受け入れた。しかし、建物の内部はなお危険とされ、彼らの大半は広い庭園に野宿した。まもなく病身のドラムランリッゲ伯爵はカステルスの配慮で医家スケルトンの診察を受け、夜間の寒気を避けて港湾の船舶に移り、船室で帰国の日を待機する。

親愛なるカストレス殿

一七五五年十一月二四日 マドリッド

ベンジャミン・キーン

拝啓。宮廷で今朝コンデ・デ・アラランダ殿の歡送をしました。そなた宛てニポンドの嗅ぎ煙草を彼に託します。ささやかな品ですが、自分の食卓で一片を眺めるとき、そなたが喫煙されるように、またとりわけ暖かな寝室におられるように祈ります。怖るべき災厄から天恵によつてそなたが守護されることを！つねに親密である友より。 敬具。

「追伸」アラランダ殿に随行する若手将校、ラ・トーレ侯爵からそなたへの紹介を望まれました。この書簡はスペイン人送達史が届けます。アラランダ殿はほぼ九日後にリスボンへ着くはずです。

イギリスにおけるリスボン大地震の震撼は、宮廷や政界のみに止まらなかつた。女権運動の先駆とされるブルーストッキング、いわゆる青鞥のひとり、メアリー・グランヴィル・デラング夫人は、ハンブルグの実業家ジョン・ゴアやロンドンの大手貿易商ウィリアム・メリシュと親密であった。ポルトガル貿易に係わるふたりについて、一七五五年十一月二九日親友のデヴェス夫人に宛てた書簡で彼女はつぎのように述べる。

Keene, *op.cit.*, pp.436-438.

参照 本稿 第五論文第二節 ドラムランリッゲ伯爵とケインズベリー公爵夫妻

Keene, *op.cit.*, p.438.

メアリー・グランヴィル・デラング夫人からデヴェス夫人へ

ニュー・ストリート、スプリング・ガーデンにて

一七五五年十一月二十九日

・・・リスボンの暗い運命が私たちの気分を沈滞させ、いまも元氣になれません。火曜日にタウンへ行くと、メリシュ夫人から手紙が（親友）サリーのもとに届いていました。昨日訪ねたらよかった、震災で傷ついた身に慰めが得られたのに、と書いてあります。地震によるメリツシュ様の損害は莫大と思われれます。彼は際立って裕福な人でした。共同経営者がイギリスに帰りましたが、友人も財産も家族も、生きる手立はすべて喪失したのです。親愛なる栗毛の女性が、ただ一日でどれだけ失ったでしょう。ゴア様の損害はすくなくとも三万ポンド、貿易商ブルストウ様の損害は十万ポンド、奥様の遺産を合わせ、セント・アザフ主教の損害は七千ポンドです。夜が明ける毎に、新たな凶報に接するのを怖れています。力と富しか求めぬ人たちは、不滅の幸福を真剣に追求するものと期待します。眼前の災厄に打ち砕かれ、いまはこれだけしか念頭に浮びません。

マドリッドでキーンは震災前にも増して、頻繁にリスボンへ便りを送った。この時期に書かれたカストレス宛書簡は、二カ月で計六通に及ぶが、被災地リスボンからの返信は、残念ながら保存の有無を確認できない。

親愛なるカストレス殿

一七五五年十二月六日 マドリッド

ベンジャミン・キーン

リスボンの惨状がスペイン宮廷で毎日話題になります。身近なところでは哀れにも二名の婦人が歿したものの、他はみな難を免れましたね。ふたりの伯爵に会われたら、無事を祝すとお伝えください。タヴオラ家

の人々はどこにいて、どう逃れたでしょうか。彼らが住むピケノ緑地までは火災も及ばないでしょう。ワインを送ってくれるゴードン殿については、消息を掴めないでしょう。薬種商テイラー殿が薬瓶とともに必死に逃げえたか否かを知りたく、無事であれば以前に頂いた鍊金薬をまた所望したいものです。ランギア殿はどうなったでしょうか。

(商館専属の牧師) ウィリアムソン殿、(医官) カンティイ殿、(大使秘書) ゴードン殿によるしくお伝えくささい。そなたのご家族についても同様です。寒気が厳しくなりました。お便りをお待ちしつつ、ご自愛を祈ります。

こちらについて特筆すべきことはありません。すべての知己はお元気で、そなたの無事を喜んでいます。体調を崩した私ですが、どうやら恢復しました。そなたの忠実な従僕より。

敬具。

親愛なるカストレス殿

一七五五年十二月十六日 マドリッド

ベンジャミン・キーン

拝啓。昨夜十一時か十二時頃フランスを經由したロンドンからの送達史に起されました。そなたへの至急使も携えていて、私も読ませて頂き、スペイン国王にも内容をお伝えするつもりです。十一月十日付で送付した地震の報告が、イギリスに届いた最初の通信との由です。そして十七日付書簡によつてそなたの無事という吉報が得られ、タウンシエンド殿のポルトガル派遣が中止されました。なぜ応急の措置が用意されたかを理解頂くために、私の十日付報告からそなたに関する記述を抜粋します。どうぞお読みください。

「閲読できたローマ教皇大使の書簡には かつてリスボンが存立した地点から と発信地が書かれております。ナポリ公使の書簡も読ませて頂きましたが、カストレス殿への言及は見当りません。しかし、無事であると私は信じます。著名であり、敬愛される彼が遭難したのに、教皇大使もナポリ公使も(フランス大使) バッシイも言及せぬことはありません。ないからです。」

さきに述べたとおり、十七日にそなたの四日付書簡が届いて、リスボ

ン壊滅の状況を詳細に知り、在留者の大半がイギリスへ出航したことに安堵しました。そなたに関する対処はやがて直接聞かれることで、ここでは繰り返しません。しかし、十二月三日に至るも、ご自身の書簡はイギリスに届いていないのです。

国王陛下の偉大にして寛仁なご配慮、さらにはイギリス議会の決断に感銘を受けました。悲哀の最中であつてごうした支援を欣然と執行され、心を癒やされるように祈ります。 中略

今朝宮廷での会談に先立つて、ポルトガルへの援助についてスペイン国王ご一家に説明し、今回の博愛的な施策によつてイギリスの国王と国民は、これらの方々に深い感銘を与えたようです。フランスはバツシイ自身に約二万五千ルーブルを支援しただけで、ポルトガル宮廷へはクリム・コヒーを贈る程度のお見舞でした。(スペイン宰相) ウォール殿はそなたから十二月二日付書簡を受け取られ、私に謝意を示されました。そなたに関して(國務大臣) ヘンリ・フォクスが語ることを、早晚聞かれるでしょう。励ましになると思います。想像を絶する苦難に曝され、博愛的な救助を続けるそなたに支援がなければ、榮譽も自愛も人道も敬意も地に墜ちるとしか言えません。

メアリ・グランヴィル・デラニイ夫人の膨大な著作『自伝と書簡』で、リスボン大地震に関する箇所はわずか四ページに過ぎない。しかし、作曲家ヘンデルをはじめ、多彩な交友関係を反映して、そこにも注目すべき記述がいくつも見出される。八歳のとき叔母の家に養女に出されたメアリは、キティと愛称される少女と親しくなった。楚々たるこの親友が、のちのカトリック又・クインズベリー公爵夫人、リスボン大地震に遭遇したドラムランリッグ伯爵の母である。一七二八年公爵夫人が政界を諷刺した劇詩人ジョン・ゲイを擁護して、宮廷から追放されたとき、「彼女の讚美者がみな仰天した」と共に「先例のない処分がなされた」と、デラニイ夫人はこれを批判した。

メアリ・グランヴィル・デラニイ夫人からデヴェス夫人へ

スプリング・ガーデン

一七五五年十二月四日

地震によるリスボンの惨状についてさきの書簡で述べたあと、よい情報をお届けしたいと待機しましたが、なかなか得られずにおりました。イギリス人の死者は少数、六名か七名との知らせに安堵しましたが、王都リスボンは完全に破壊され、貿易商の財産と書類はすべて消え失せました。ゴア様とメリシユ様は甚大な被害を受けつつも、毅然として対処され、メリシユ夫人は気高く行動されています。昨日彼女のもとにお邪魔したサリーによれば、不幸なポルトガル人に送るべく、裁縫用具をはじめあらゆる種類の道具を箱に詰めるため、とくに多忙でおられました。メリシユ様の共同経営者は、リスボンの経理事務所において、小部屋で凄まじい震動を感じ、上の階で住民の乱暴が、と思ったそうです。しかし、ただちに事態を悟り、慌てて屋外に駆け出ると、街路の両側が木柱のように倒壊しました。辛うじて道の真中へ踏み込み、脱出したものの、すぐさま無一文の自分に気づいて引き返すと、まだ事務所はそのままでした。金庫を開き、両手に貨幣を握って、門口を離れた瞬間、建物が倒壊したのです。岸辺へ辿り着くと、避難する群衆が船に溢れていました。乗せると叫ぶや、割増を要求します。通貨を持ち出さなければ、避難もできず、餓死したでしょう。彼が話されるには、群衆の凄まじい悲鳴と苦悶は見るだに耐え難く、教会では数千の人々は圧死し、生ける者も不幸な屍が累々とする荒墟に留まっています。このお手紙は五日付で、その日も軽震を数度感じた由。以後は便りがなく、八日に起きた地震が気掛かりです。……ヘイ様ご一家は無事でしたが、ドラムランリッグ伯爵の消息は不明です。ルシー様の出発に先立ってリスボンに行かれ、地震のとき当地に滞在されたはずです。リスボンから一マイル離れたところにおいて、我が子は大丈夫と、クインズベリー公爵ご夫妻は確言されました。大地が炸裂しないまでも、地震の衝撃で建物は倒壊し、閃光とともに大火が全市を焼き尽し、漆喰の床だけが残る家屋は、真つ暗のとことです。神よ、我らにはよりよい警報をお恵みください。

我が子の生存を知ったクインズベリー公爵は、パケット定期便の難渋とスペイン経由の帰国も想定し、マドリッド駐在のキーンに書面で助力を懇請した。すでに本稿論文第五で引用したとおり、カストレス宛十二月十九日付書簡でキーンは、ドラムランリッグ伯爵とクインズベリー公爵家について感慨

を誌している。この書簡はかなりの長文に及び、イギリス政界の内情にも言及されるが、ここでは震災をめぐる他の記述も加えて再録する。これがリスボンに送られた年度最後の送信となり、運命の年一七五五年も暮れた。

アブラハム・カストレス殿

マドリッド、一七五五年十二月十九日

ベンジャミン・キーン

さきに今月二日付書簡を頂き、いま十一日付書簡を受け取りました。いつまたいかにして脅威が消えるかと、苦慮されるのも当然でしょう。丹誠にも友人たちの安否を知らせて頂きました。ご家族全員とともに奇蹟的に脱出されたタヴオラ侯爵を祝福し、その他生存者の方々にもお喜び申し上げます。震災の全体状況からすれば、在留民の犠牲者が少数であつたことは、奇蹟のように思われますが、不幸にも伴侶を亡くされたヘイク殿へどのように弔意を伝えるべきか判りません 中略。

悲しい手紙のひとつとしてクインズベリー公爵から書簡を頂きました。その文面を拝読し、いまだ落涙を押え切れません。事情はご存知かと思えます。ご子息の安否が判らぬまま、公爵は生き抜く気力みずから支え、郊外に避難されました。この若い貴族に関しては、あなたに下した推断を同じように抱きます。同じような事態で同じような方の音信が途絶えたことを、多くの事例は示しています。彼があなたに宛てた手紙には、ふたつの称号が付され、公爵からお聞きしたその理由は、感銘深いものでした（長男の急死という）家庭的な不幸があつて、ドラムランリグ伯爵家を弟が相続したのです。カントレイ医学博士と一緒にいま彼が船上にいることを、私はクインズベリー公爵にお伝えします。ご子息が怖るべき惨憺たる状況から脱出できたか否かを、明らかに公爵は知らず、マドリッドへ寄る場合には、必要な支援が得られるよう、私に懇請されるのです。若きドラムランリグ伯爵に知らせてください。マドリッドに寄られる場合には、必要なものすべてを提供するのみならず、私のもとや宮廷においてあらゆる歓待が用意される、と。遺憾にも公爵の書簡は（ポルトガルへの使者）ビュロックの出発より遅く届きました。

中略

親愛なる友よ！わが身が暖かで快適であるのを感じるとき、こうした

安楽を奪われたそなたを思わずにはおれません。また、卓上の高級品を眺めるとき、必需品すら欠くそなたを考えずにはおれません。しかし、怯懦な者を勇気づけるそなたの気概を知って、心を明るくします。震災によっても行路を変えることなく、博愛の精神を不撓不屈に發揮されて、そなたの名声は燦然と輝き、衆生の祝福を受けるでしょう。だが、そうした援助を踏みにじる人たちを、私は忘れも赦しもしないのです。これを書き続けるのに、一時間以上は耐えられません。そなたの悲痛を聞いてわが心も沈み、そなたの堅忍を知ってわが身も引き締まる思いです。気の毒なウイリアム神父によるしくお伝えください。とりわけご老体のメイナ・セリ老公爵夫人はそなたについて心配され、無事であったのに歓喜されました。アリザ、ベジャール、スルフエリノ。そなたの男友達も数人もそうですが、ヴァルパライソの名だけ挙げておきます。便りが届いたと聞いて不幸なパーカーもやはり喜び、そなたへの書簡を私に託しました。

初出 二〇一四年十一月一日